

中国の
禅僧たちの
生活

禅寺の職位

国家・会社・町内会、あらゆる組織は円滑な運営のために役割を分担します。これは禅寺でも同じです。今回は、十四世紀の中国の禅寺における、さまざまな職位とその業務について、『勅修百丈清規』（禅寺の軌範書）の記述をもとに見てみましょう。

まず、寺院の総責任者は当然ながら、住持（住職）です。方丈・堂頭和尚ともよばれます。大寺院の住持は、広く複数の候補者から、最終的に政府が任命しました。これを「十方住持制」といいます。

その住持の徳を慕い行脚僧たちが集まり

小川 太龍

ます。この行脚僧たちを雲水といえます。現代の辞書は、「行雲流水（雲のように行き、水のように流れる）」の略だと説明することが多いようです。一方で、行脚僧を示す表現に「穿雲渡水（雲を突き抜け、川を渡る）」があり（『石霜楚圓禅師語録』、江戸時代にはこの説を取るものがあります（『勅修百丈清規左觔』）。

さて、その雲水たちが禅寺の組織を構成します。役割は大きく二つに分けられました。一つは東序（東班）という事務方、もう一つは西序（西班）という実務方です。

合わせて両序（両班）といひます。そして、役に就かない雲水たちは、衆僧（大衆）とよばれます。

東序から見てみましょう。東序の役職者は、知事（事を知る）と称しました。『修百丈清規』卷二「告香図」には、都寺・監寺・副寺・維那・典座・直歳の六つの職名が見えます。そのうち、都寺・監寺・副寺の三役が、寺院事務を総括しました。いわば都寺が事務局長、監寺（監院）が総務部長、副寺（副司）が財務・経理部長に相当するでしょうか。そして前号で入門僧を点検した維那（堂司・悦衆）は、雲水の管理統率者でした。典座は、食事を取り仕切ります。ちなみに、これは本来、僧侶たちの座席の順番を典る役でしたが、禪寺では食

事の責任役となりました。最後の直歳は、寺院の田畑や備品——舟や荷車まで——一切を管理し、また建物の修繕、作務（作業業務）全般を指揮し、さらに警備も担当しました。以上の知事職は、大寺院では住持と同じく政府が任命するかたちも取ったようです。

一方の西序の役職者は、頭首と称しました。これも先の「告香図」には知事と対になるように、首座・書記・蔵主・知客・知浴・知殿の六役が示されています。首座は、実際に衆僧を率いるリーダーです。前堂・後堂の二人が置かれることもありました。書記は、文書・書状など書き物全般を引き受けます。蔵主（知蔵）は、経典を収めるお堂の管理をする学識を必要とする役職で

す。知客は、前号にも登場した、客人を接待する受付案内です。知浴は、風呂に関わる一切を取り仕切ります。そして知殿は、仏殿をはじめとする殿堂の管理を任せられました。

これらの役職について、先の「告香図」には、副寺が三人、首座と藏主が二人ずつ記されています。つまり、必要に応じて複人数で当たったのです。また西序には、住持の秘書である五人の侍者（焼香・書状・請客・衣鉢・薬湯）と、衆僧を支える聖僧侍者も入りました。そして、彼ら知事・頭首は基本的には管理職です。その下には実務に携わる多くの役がありました。例えば、それぞれの管理・当番役として、飯頭（ご飯）、菜頭（おかず）、茶頭（お茶）、浄

頭（トイレ）、炭頭（燃料）、園主・園頭（菜園）、莊主・監收（莊園）などがあり、さらに行者（在俗の労働者）も従事しました。

このように多くの職位が設けられたのは、ひとえに衆僧が修行に専念できるようにするためです（長蘆宗頤「龜鑑文」）。それは入浴の順番にもあらわれており、住持や役職者よりも衆僧が先に入浴することが決まっていました。

では次回は、その衆僧たちが打ち込んだ、修行内容について見てゆきます。

小川 太龍（おがわ たいりゅう）

一九七八年兵庫県生まれ。花園大学大学院博士課程単位取得、博士（文学）。専門は中国禅思想史・禅宗史。明石市常楽寺副住職・花園大学文学部准教授・同、国際禅学研究所兼任研究員。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄨ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町1
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第74巻 第7号(通巻第875号)
令和6年7月1日発行(毎月1日発行)
定価60円

【発行人】野口善敬

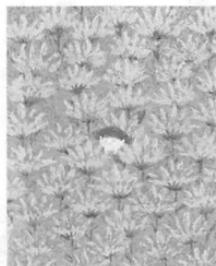
【編集人】箱崎善法

【印刷人】古崎良一

【発行所】京都市右京区花園木辻北町1
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400
電話／075-463-3121

表紙の絵

「夏帽子」



暑い陽でぐんぐん育つ!
たまに少し休憩して

絵・元場 葵(もとば あおい)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,620円(税・送料込)です。
下記の電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。